

たばこと健康 (矢木 泰弘)

都島区民健康教室での講演からの引用抜粋

日時:平成 25 年 2 月 2 日 場所:都島区医師会館

タバコは肺がんなどの悪性疾患の発症率を上げ、さらには成人病の危険因子のひとつでもあります。タバコに含まれる有害な化学物質は約 4,000 種類あるとされており、生体に様々な影響を及ぼします。特に三大有害物質として、ニコチン、タール、一酸化炭素があげられます。ニコチンは、依存症と血管収縮、タールは発がん性、一酸化炭素は酸素欠乏や動脈硬化に関与していることが知られています。

喫煙の人体への急性影響としては、血管収縮による四肢末端の冷感、心拍数と血圧上昇が認められています。妊娠中の喫煙による母体内の胎児、また受動喫煙により乳幼児にも影響を及ぼし、様々な疾患を引き起こすと考えられています。妊娠・出産に及ぼす影響は特に大きく、胎盤早期剥離、前置胎盤、前期破水の危険が増大し、出生時体重は軽い傾向にあると言われています。妊婦の喫煙によって出生児に現れる障害として、水頭症、小頭症、鎖肛、口蓋裂などがあります。

発達に及ぼす影響としては、認知行動障害、読書や計算能力の低下、聞き取り能力の低下、多動などの行動異常、学業レベルの低下も報告されています。受動喫煙が原因で起こる小児疾患としては、感冒、急性気管支炎、肺炎、喘息、喘息様気管支炎、アトピー性皮膚炎、中耳炎、乳幼児突然死症候群などがあります。成長後の影響としては暴力犯罪の報告があまます。妊娠中の母親の喫煙により、子供が成長した時の暴力犯罪が増加し、1 日 20 本以上の喫煙では子供が暴力犯罪を犯す率が 2 倍、常習犯罪者になる可能性が 1.8 倍になると報告されています。原因としては、脳などの中枢神経系の障害が関与している可能性が示唆されています。

他にもアンチエイジングの考えからは、諸臓器の老化を促進させることにより障害がもたらされます。主に歯周病を例に説明すると、喫煙により、①ニコチンで歯肉の血管が収縮し血流低下を来す、②ヤニの付着により歯垢の増加、細菌の増殖を来す、③血中エストロゲンが低下し骨密度が低下する。以上により、喫煙は歯周病のリスクを増大し、歯の老化促進に関与していると考えられます。また歯周病の存在により、糖尿病、心血管疾患、呼吸器感染症、妊娠異常、骨粗しょう症のリスクが増大すると報告されています。